

歴代消防長

初代消防長(兼署長)	消防司令長	佐々木 重信 (昭和23年 2月 5日～昭和37年11月30日：退職)
第2代消防長(兼署長)	消防司令長	角田 兼太郎 (前職：大阪市消防局) (昭和37年12月 1日～昭和44年 1月30日：退職)
第3代消防長(兼署長)	消防監	祝 勝巳 (前職：消防本部次長) (昭和44年 2月 1日～昭和54年 1月31日：退職)
第4代消防長(兼署長)	消防監	磯辺 忠夫 (前職：消防本部次長) (昭和54年 2月 1日～昭和59年 3月31日：退職)
第5代消防長	消防監	大橋 正治 (前職：消防署長) (昭和59年 4月 1日～昭和61年 3月31日：退職)
第6代消防長	消防監	上浦 洋志 (前職：消防本部次長兼消防署長) (昭和61年 4月 1日～平成 4年 7月17日：退職)
第7代消防長	消防監	梶田 功 (前職：箕面市総務部長) (平成 4年 8月 1日～平成 6年 4月14日)
第8代消防長	消防監	坂口 征男 (前職：箕面市健康福祉部長) (平成 6年 4月15日～平成 6年12月11日)
第9代消防長	消防監	木村 忠利 (前職：消防本部次長) (平成 6年12月12日～平成13年 3月31日)
第10代消防長	消防監	高崎 和男 (前職：消防本部次長) (平成13年 4月 1日～平成14年 3月31日：退職)
第11代消防長	消防監	矢野 廣二 (前職：消防本部次長) (平成14年 4月 1日～平成20年 3月31日：退職)
第12代消防長	消防監	上田 道博 (前職：消防本部総務次長兼消防次長) (平成20年 4月 1日～平成22年 3月31日：退職)
第13代消防長	消防監	三上 照男 (前職：消防本部消防次長兼次長) (平成22年 4月 1日～平成25年 3月31日：退職)
第14代消防長	消防監	室留 圭二 (前職：消防署長) (平成25年 4月 1日～平成27年 3月31日：退職)
第15代消防長	消防監	美谷 一哉 (前職：消防本部消防次長兼次長) (平成27年 4月 1日～)

歴代消防署長

初代消防署長	消防司令長	佐々木 重信
第2代消防署長	消防司令長	角田 兼太郎（前職：大阪市消防局）
第3代消防署長	消防監	祝 勝巳（前職：消防本部次長）
第4代消防署長	消防監	磯辺 忠夫（前職：消防本部次長）
第5代消防署長	消防司令長	大橋 正治（前職：消防署警備司令） （昭和54年 4月 1日～昭和59年 3月31日）
第6代消防署長	消防司令長	上浦 洋志（前職：消防本部次長兼任） （昭和59年 4月 1日～昭和61年 3月31日）
第7代消防署長	消防司令長	木村 忠利（前職：消防本部次長兼警備課長） （昭和61年 4月 1日～平成 3年 3月31日）
第8代消防署長	消防司令長	米沢 範一（前職：消防本部総務課長） （平成 3年 4月 1日～平成 4年 7月17日：退職）
第9代消防署長	消防司令長	木村 忠利（前職：消防本部次長兼総務課長） （平成 4年 8月 1日～平成 5年 4月 6日）
第10代消防署長	消防司令長	中尾 揮一（前職：通信指令室長） （平成 5年 4月 7日～平成 6年12月11日）
第11代消防署長	消防司令長	甲良 一起（前職：消防署参事） （平成 6年12月12日～平成 9年 6月30日）
第12代消防署長	消防司令長	高崎 和男（前職：消防本部総務課長） （平成 9年 7月 1日～平成12年 3月31日）
第13代消防署長	消防司令長	中尾 揮一（前職：消防本部次長） （平成12年 4月 1日～平成13年 3月31日）
第14代消防署長	消防司令長	中村 知（前職：消防署警備第1課長） （平成13年 4月 1日～平成16年 3月31日：退職）
第15代消防署長	消防司令長	中村 保（前職：消防本部警備課長） （平成16年 4月 1日～平成20年 3月31日：退職）
第16代消防署長	消防司令長	東 孝（前職：消防署副理事兼専任参事） （平成20年 4月 1日～平成24年 3月31日：退職）
第17代消防署長	消防司令長	室留 圭二（前職：総務部副理事） （平成24年 4月 1日～平成25年 3月31日）
第18代消防署長	消防司令長	小倉 慎布（前職：消防本部消防次長兼次長） （平成25年 4月 1日～平成28年 3月31日：退職）
第19代消防署長	消防司令長	井上 律夫（前職：消防署通信指令室長） （平成28年 4月 1日～ ）

歴代消防団長

初代団長	中川 半次郎	(就任：昭和23年 1月 1日～退任：昭和24年12月31日)
第2代団長	藤井 義一	(就任：昭和25年 1月 1日～退任：昭和30年12月31日)
第3代団長	瀧井 璣	(就任：昭和31年 1月 1日～退任：昭和35年12月31日)
第4代団長	武藤 善一	(就任：昭和36年 1月 1日～退任：昭和41年 3月31日)
第5代団長	中井 貴次	(就任：昭和41年 4月 1日～退任：昭和43年 3月31日)
第6代団長	浅井 正二	(就任：昭和43年 4月 1日～退任：昭和46年 3月31日)
第7代団長	小路 庄次郎	(就任：昭和46年 4月 1日～退任：昭和54年 3月31日)
第8代団長	垣内 佳夫	(就任：昭和54年 4月 1日～退任：平成 8年 3月31日)
第9代団長	中井 博幸	(就任：平成 8年 4月 1日～退任：平成16年 3月31日)
第10代団長	豊田 茂実	(就任：平成16年 4月 1日～退任：平成27年 3月31日)
第11代団長	西川 正彦	(就任：平成27年 4月 1日～)

褒章・叙勲等受章者一覧

元警備第2司令	中川 伊佐武	昭和58年春の叙勲「勲六等瑞宝章」受章 (昭和58年 4月29日)
初代消防長(兼署長)	佐々木 重信	昭和59年秋の叙勲「勲五等瑞宝章」受章 (昭和59年11月 3日)
第2代消防長(兼署長)	角田 兼太郎	昭和60年春の叙勲「勲六等旭日単光章」受章 (昭和60年 4月29日)
第3代消防長(兼署長)	祝 勝巳	平成 2年春の叙勲「勲五等瑞宝章」受章 (平成 2年 4月29日)
第8代団長	垣内 佳夫	平成 5年春の褒章「藍綬褒章」受章 (平成 5年 4月29日)
第4代消防長(兼署長)	磯辺 忠夫	平成11年秋の叙勲「勲五等瑞宝章」受章 (平成11年11月 3日)
元副団長	平井 甚一	平成18年春の叙勲「瑞宝単光章」受章 (平成18年 4月29日)
元通信指令室長	平井 一博	平成18年秋の危険業務従事者叙勲「瑞宝単光章」受章 (平成18年11月 3日)
元予防課長	佐伯 薫	平成19年春の危険業務従事者叙勲「瑞宝単光章」受章 (平成19年 4月29日)
元警備第1課長補佐	角村 威是	平成19年秋の危険業務従事者叙勲「瑞宝単光章」受章 (平成19年11月 3日)
元警備第1課主幹	辻岡 靖信	平成20年春の危険業務従事者叙勲「瑞宝単光章」受章 (平成20年 4月29日)
第5代消防長	大橋 正治	平成20年秋の危険業務従事者叙勲「瑞宝双光章」受章 (平成20年11月 3日)
元総務課副主幹	奥山 義晴	平成21年春の危険業務従事者叙勲「瑞宝単光章」受章 (平成21年 4月29日)
元通信指令室長	甲良 一起	平成21年秋の危険業務従事者叙勲「瑞宝双光章」受章 (平成21年11月 3日)
第14代消防署長	中村 知	平成22年秋の危険業務従事者叙勲「瑞宝双光章」受章 (平成22年11月 3日)
第10代団長	豊田 茂実	平成23年春の褒章「藍綬褒章」受章 (平成23年 4月29日)
第11代消防長	矢野 廣二	平成23年秋の危険業務従事者叙勲「瑞宝双光章」受章 (平成23年11月 3日)
第10代消防長	高崎 和男	平成24年春の危険業務従事者叙勲「瑞宝双光章」受章 (平成24年 4月29日)
第15代消防署長	中村 保	平成24年秋の危険業務従事者叙勲「瑞宝双光章」受章 (平成24年11月 3日)
第12代消防長	上田 道博	平成25年秋の危険業務従事者叙勲「瑞宝双光章」受章 (平成25年11月 3日)
元通信指令室課長補佐	丸山 照信	平成26年春の危険業務従事者叙勲「瑞宝単光章」受章 (平成26年 4月29日)
第16代消防署長	東 孝	平成27年秋の危険業務従事者叙勲「瑞宝双光章」受章 (平成27年11月 3日)
副団長	林 利昭	平成27年秋の褒章「藍綬褒章」受章 (平成27年11月 3日)

箕面市消防本部の沿革

昭和時代	
22 年 12 月 23 日	○消防組織法が公布され、警察の管理から完全に独立した市町村の自治体消防制度が確立された。
23 年 1 月 1 日	○箕面町制施行
〃	○大阪府池田消防署から分離し平尾分団詰所に箕面町消防署設置
2 月 4 日	○管轄区域：箕面町、萱野村（人員 9 名、日産大型消防ポンプ自動車 1 台）
3 月 7 日	○消防組織法施行により自治体消防として町に移管開署（人員 10 名、消防ポンプ自動車 1 台）
8 月 1 日	○箕面町・萱野村・止々呂美村合併、これに伴い箕面町消防本部・消防署と改称（署員 15 名・消防団 20 分団・団員 694 名・消防ポンプ自動車 3 台・手引動力ポンプ 9 台・腕用ポンプ 20 台）
10 月 30 日	○箕面町消防本部（署）庁舎 39.6 m ² を増築し 92.4 m ² となる。
24 年 12 月 20 日	○危険物保安条例により庁舎北側に危険物貯蔵庫（9.9 m ² ）新設 ○消防職員定数 15 名を 27 名に条例改正
25 年 1 月 1 日	○「消防記念日」が制定される。
31 年 12 月 1 日	○三島郡豊川村を合併、市制施行、これに伴い箕面市消防本部・消防署と改称、豊川村消防団 4 分団を加えて 24 分団 644 名の定員となる。
12 月 25 日	○境界変更により旧豊川村東部を茨木市に編入
32 年 4 月 1 日	○境界変更により茨木市の一部川合地区を箕面市に編入
35 年 7 月 1 日	○国家消防本部が「自治省消防庁」と改められた。
9 月 1 日	○関東大震災（大正 12 年 9 月 1 日）に因んで「防災の日」が制定される。
36 年 10 月 1 日	○消防救急隊規則制定に基づき救急業務を開始
38 年 7 月 3 日	○消防庁舎を西小路 91 番地に起工
12 月 21 日	○消防本部（署）新庁舎竣工 （所在地：箕面市西小路 91 番地） 敷地面積 1,406.00 m ² 建築規模 R C 造 2 階建 建築面積 307.52 m ² 延床面積 497.14 m ²
12 月 24 日	○消防職員定数 27 名を 35 名に条例改正
39 年 3 月	○大阪府知事から表彰旗を授与される。
8 月 8 日	○箕面市危険物防火協力会結成、箕面市消防本部内に事務局を置く。（初代会長台正彦氏、顧問角田消防長会員数 25）
8 月 18 日	○箕面市少年消防クラブ結成（クラブ員数 111 名）
40 年 6 月 28 日	○茨木市と消防相互応援協定締結
7 月 2 日	○吹田市と消防相互応援協定締結

41 年 4 月 1 日	○「箕面市危険物防火協力会」を「箕面市防火協会」と名称変更
42 年 4 月 1 日	○豊中市及び池田市と各消防相互応援協定締結
43 年 12 月 25 日	○消防職員定数 35 名を 40 名に条例改正
45 年 1 月 1 日	○「人類の進歩と調和」をテーマとした国際的大事業である日本万国博覧会が吹田市千里丘陵で開幕され、会場警備のため、吹田市万国博消防署へ 2 名派遣
3 月 1 日	○万国博覧会会場警備のため吹田市万国博消防署へ 3 名派遣
9 月 16 日	○吹田市万国博消防署派遣者 5 名、派遣を解く。
9 月 22 日	○消防本部（署）庁舎車庫（R C 平家建 66 m ² ）増築
10 月 1 日	○大阪市と大阪市航空消防応援協定締結
47 年 3 月 1 日	○東能勢村（現豊能郡豊能町）と消防相互応援協定締結（火災防ぎよのみ）
4 月 1 日	○消防職員定数 40 名を 47 名に条例改正
〃	○消防本部（署）組織機構改革 1 本部 1 署（2 課 4 係） 本部総務課（庶務係・予防係） 本署警備課（警備第 1 係・警備第 2 係）
12 月 25 日	○消防職員定数 47 名を 65 名に条例改正 ○消防本部（署）庁舎増築（事務室及び仮眠室 75 m ² ）
49 年 2 月 1 日	○川西市と消防特別相互応援協定締結
4 月 1 日	○消防署東分署竣工 （所在地：箕面市栗生外院 270 番地の 4） 敷地面積 1,639.04 m ² 建築規模 R C 造 2 階建 建築面積 372.56 m ² 延床面積 514.64 m ²
〃	○消防本部（署）組織機構改革 1 本部 1 署 1 分署（2 課 7 係） 本 部 総務課（庶務係・予防係） 警備課（警備企画係） 本 署 （警備第 1 係・警備第 2 係） 東分署（警備第 1 係・警備第 2 係）
8 月 1 日	○消防特別救助隊、東分署に発足
50 年 7 月 1 日	○消防職員定数 65 名を 85 名に条例改正
51 年 7 月 1 日	○消防署西分署竣工 （所在地：箕面市瀬川 3 丁目 1 番 56 号） 敷地面積 2,152.00 m ² 建築規模 R C 造 2 階建 建築面積 386.57 m ² 延床面積 542.94 m ²
〃	○消防本部（署）組織機構改革 1 本部 1 署 2 分署（2 課 9 係） 本 部 総務課（総務係）

	警防課（予防係・警備企画係） 本 署（警備第 1 係・警備第 2 係） 東分署（警備第 1 係・警備第 2 係） 西分署（警備第 1 係・警備第 2 係）
53 年 12 月 15 日	○消防署西分署に訓練塔竣工 訓 練 塔 建築規模 R C 造 7 階建 20m 建築面積 33.49 m² 延床面積 231.00 m² 補助訓練塔 建築規模 S 造 3 階建 9m 建築面積 26.93 m² 延床面積 60.00 m²
56 年 3 月 30 日	○消防職員定数 85 名を 90 名に条例改正
57 年 4 月 29 日	○箕面市婦人防火クラブ結成（3 クラブ 139 名）
60 年 4 月 1 日	○消防本部・消防署合同庁舎竣工 （所在地：箕面市箕面 5 丁目 11 番 19 号） 敷地面積 3,971.01 m² 建築規模 R C 造 3 階建 一部屋根 S 造 建築面積 1,385.63 m² 延床面積 3,359.39 m²
60 年 4 月 1 日	〔消防通信指令装置導入〕
〃	○消防職員定数 90 名を 94 名に条例改正
5 月 1 日	○豊能町と消防相互応援協定締結
61 年 7 月 19 日	○消防本部（署）組織機構改革 1 本部 1 署 2 分署（4 課 12 係） 本 部 総 務 課（総務係） 警 防 課（予防査察係・設備指導係・警備企画係） 本 署 警備第一課（警備第 1 係・救急第 1 係） 警備第二課（警備第 2 係・救急第 2 係） 東分署（警備第 1 係・警備第 2 係） 西分署（警備第 1 係・警備第 2 係）
63 年 9 月 1 日	○大阪府内全消防本部（局）間での消防相互応援協定締結
12 月 26 日	○東分署の前面道路拡幅に伴い 86.7 m ² を都市整備部へ移管し、敷地面積 1,552.34 m ² となる。
平成時代	
元年 4 月 1 日	○豊能町消防相互応援協定に関する覚書締結 （止々呂美地域の救急業務応援要請について）
2 年 4 月 1 日	○消防職員定数 94 名を 97 名に条例改正
3 年 4 月 1 日	○消防本部（署）組織機構改革 1 本部 1 署 2 分署（4 課 1 室 13 係） 本 部 総 務 課（総務係） 予 防 課（設備指導係・予防査察係） 本 署（警備企画係） 警備第一課（警備第 1 係・救急第 1 係）

4 年 4 月 1 日 4 月 4 日	警備第二課（警備第 2 係・救急第 2 係） 通信指令室（通信係） 東分署（警備第 1 係・警備第 2 係） 西分署（警備第 1 係・警備第 2 係） ○消防職員定数 97 名を 100 名に条例改正 ○消防本部（署）組織機構改革 1 本部 1 署 2 分署（4 課 1 室 13 係） 本 部 総 務 課（総務係） 予 防 課（設備指導係・予防査察係） 本 署（警備企画係） 警備第一課（警備第 1 係・救急第 1 係） 警備第二課（警備第 2 係・救急第 2 係） 通信指令室（通信係） 東 分 署（警備第 1 係・警備第 2 係） 西 分 署（警備第 1 係・警備第 2 係）
5 年 4 月 1 日 6 年 4 月 15 日	○消防職員定数 100 名を 106 名に条例改正 ○消防本部（署）組織機構改革 1 本部 1 署 2 分署（5 課 1 室 12 係 1 担当） 本 部 総 務 課（総務係） 予 防 課（設備指導係・予防査察係） 警 備 課（警備企画係） 本 署 警備第一課（警備第 1 係・救急第 1 係） 警備第二課（警備第 2 係・救急第 2 係） 通信指令室（通信担当） 東 分 署（警備第 1 係・警備第 2 係） 西 分 署（警備第 1 係・警備第 2 係）
8 年 4 月 1 日 9 年 7 月 1 日	○消防職員定数 106 名を 107 名に条例改正 ○消防本部（署）組織機構改革（係制廃止） 1 本部 1 署 2 分署（5 課 1 室 12 グループ） 本 部 総 務 課 予 防 課（設備指導 G・予防査察 G） 警 備 課 本 署 警備第一課（警備第 1 G・救急第 1 G） 警備第二課（警備第 2 G・救急第 2 G） 通信指令室（通信第 1 G・通信第 2 G） 東 分 署（警備救急第 1 G・警備救急第 2 G） 西 分 署（警備救急第 1 G・警備救急第 2 G）
11 年 4 月 1 日	○消防本部（署）組織機構改革（総務担当設置） 1 本部 1 署 2 分署（1 担当 5 課 1 室 12 グループ） 本 部 総 務 担 当 総 務 課 予 防 課（設備指導 G・予防査察 G） 警 備 課

13 年 4 月 1 日	本 署 警備第一課（警備第 1G・救急第 1G） 警備第二課（警備第 2G・救急第 2G） 通信指令室（通信第 1G・通信第 2G） 東分署（警備救急第 1G・警備救急第 2G） 西分署（警備救急第 1G・警備救急第 2G） ○消防本部（署）組織機構改革 1 本部 1 署 2 分署（1 担当 5 課 1 室 2 グループ） 本 部 総 務 担 当 総 務 課 予 防 課 警 備 課 本 署 警備第一課 警備第二課 通信指令室（通信第 1G・通信第 2G） 東 分 署 西 分 署
17 年 4 月 1 日	○消防本部（署）組織機構改革 1 本部 1 署 2 分署（5 課 1 室 1 担当） 本 部 総 務 課 予 防 課 警 備 課 本 署 企画調整・高度救急担当 警備第一課 東分署 西分署 警備第二課 東分署 西分署 通信指令室
18 年 3 月 15 日	○消防通信指令装置更新整備 〔高機能消防指令センター H A 3000Ⅱ型〕
18 年 4 月 1 日	○消防職員定数 107 名を 111 名に条例改正
21 年 4 月 1 日	○消防本部（署）組織機構改革 1 本部 1 署 2 分署（5 課 1 室 1 担当） 本 部 総 務 課 予 防 課 警 備 課 本 署 救急・企画担当 警防第一課 東分署 西分署 警防第二課 東分署 西分署 通信指令室
23 年 4 月 1 日	○消防本部（署）組織機構改革 1 本部 1 署 2 分署（5 課 1 室 2 担当）

	本 部 総 務 課 消防団・渉外担当 予 防 課 警 備 課 本 署 救急・企画担当 警防第一課 東分署 西分署 警防第二課 東分署 西分署 通信指令室 ○箕面市北部地域（止々呂美・森町）の消防に関する事務（消防団・ 予防事務等を除く）の管理及び執行を豊能町へ委託 ○豊能町消防本部と通信指令管制の共同運用を開始 ○大阪府から保安３法の権限移譲を受ける。 （保安３法：高圧ガス保安法、液化石油ガスの保安の確保及び取 引の適正化に関する法律、火薬類取締法） ○消防本部（署）組織機構改革 1本部1署2分署（6課1室1担当） 本 部 総 務 課 消防団・渉外担当 予 防 課 警 備 課 本 署 救急・企画課 警防第一課 東分署 西分署 警防第二課 東分署 西分署 通信指令室
23 年 5 月 25 日	
23 年 10 月 1 日	
24 年 4 月 1 日	
24 年 10 月 1 日	○豊中市消防本部とはしご付消防自動車の共同運用を開始 ○消防本部（署）組織機構改革 1本部1署2分署（6課1室1担当） 本 部 総 務 課 消防団・渉外担当 予 防 課 警 備 課 本 署 警防・救急企画課 警防第一課 東分署 西分署 警防第二課 東分署 西分署 通信指令室
26 年 4 月 1 日	
27 年 4 月 1 日	○消防本部（署）組織機構改革 1本部1署2分署（6室）

	本 部 消防総務室 予 防 室 消防企画室 本 署 警防第一室 東分署 西分署 警防第二室 東分署 西分署 通信指令室
//	○豊中市・池田市・豊能町・能勢町間で豊能地域広域消防相互応援協 定締結
28 年 4 月 1 日	○豊能町消防事務の全部受託開始 (消防団及び消防水利に関する事務を除く。)
//	○条例定数 111 名を 140 名に条例改正
//	○消防本部（署）組織機構改革 1 本部 2 署 2 分署 1 出張所（8 室）
	本 部 消防総務室 予 防 室 消防企画室 箕面消防署 通信指令室 警防第一室 東分署 西分署 警防第二室 東分署 西分署 豊能消防署 警防第一室 東出張所 警防第二室 東出張所
//	○茨木市・豊能町間で消防相互応援協定締結
//	○川西市と消防相互応援協定締結
//	○京都中部広域消防組合・亀岡市・豊能町間で消防相互応援協定 締結

箕面市消防団の沿革

江戸時代	○当時は、代官の支配に属し、雲竜水を備えて、消防活動が行われていた。
明治時代 22 年 4 月 1 日 27 年 2 月 9 日	○町村制施行により箕面村・萱野村・止々呂美村誕生 (各村に腕用ポンプ購入配置) ○消防組規則公布により箕面村・萱野村・止々呂美村に各消防組が結成された。
大正時代	○科学消防の必要が叫ばれた時代 (蒸気ポンプ 1 台及び手引動力ポンプ購入)
昭和時代 14 年 1 月 4 月 1 日 22 年 4 月 30 日 23 年 1 月 1 日 23 年 8 月 1 日 25 年 3 月 7 日 31 年 12 月 1 日 34 年 3 月 38 年 3 月 43 年 3 月 44 年 4 月 1 日 47 年 3 月 15 日 50 年 3 月 4 日 62 年 10 月 18 日 平成時代 2 年 9 月 2 日 10 月 12 日 11 年 2 月 9 日 13 年 2 月 9 日 14 年 3 月 24 日	○消防組規則(明治 27 年以来)が廃止、警防団令が公布された。 ○警防団令施行により箕面村警防団(8 分団 320 名・ポンプ自動車 3 台・手引動力ポンプ 4 台・腕用ポンプ 1 台)と改称し、戦時下の警備に従事した。 消防行政は、警察行政の一分野として内務省警保局の所管に属していたので、常備消防及び警防団は、警察署長が管理していた。 ○消防団令の公布により警防団を廃止、箕面村消防団を結成発足し 9 分団 474 名の定員となる。(ポンプ自動車 3 台・手引動力ポンプ 4 台・腕用ポンプ 1 台) ○箕面町制施行に伴い箕面町消防団に改称 ○箕面町・萱野村・止々呂美村合併に伴い萱野村消防団、止々呂美村消防団を加え 20 分団 694 名の定員となる。(消防ポンプ自動車 3 台・手引動力ポンプ 9 台・腕用ポンプ 20 台) ○消防団員定数 694 名を 550 名に条例改正 ○三島郡豊川村を合併、市制施行、これに伴い箕面市消防団に改称するとともに、豊川村消防団 4 分団を加えて 24 分団 644 名の定員となる。 ○(財)大阪府消防協会から表彰旗が授与される。 ○消防庁長官から竿頭綬を授与される。 ○(財)日本消防協会から表彰旗が授与される。 ○桜ヶ丘分団が解散し、23 分団 624 名の定員となる。 ○大阪府知事から竿頭綬が授与される。 ○消防庁長官から表彰旗が授与される。 ○坊島分団「第 31 回大阪府消防操法訓練大会」優勝 ○栗生分団「第 34 回大阪府消防操法訓練大会」優勝 ○栗生分団「第 12 回全国消防操法大会」へ出場 (於：横浜市・日本消防協会中央消防訓練場) ○(財)日本消防協会から特別表彰「まとい」が授与される。 ○(財)日本消防協会から竿頭綬が授与される。 ○大阪府知事から表彰旗が授与される。

14 年 9 月 1 日	○半町分団「第 46 回大阪府消防操法訓練大会」優勝
14 年 10 月 24 日	○半町分団「第 18 回全国消防操法大会」へ出場 (於：横浜市・日本消防協会中央消防訓練場)
16 年 3 月 21 日	○(財)大阪府消防協会から表彰旗が授与される。
20 年 4 月 1 日	○豊田団長が(財)大阪府消防協会豊能地区支部長に就任
20 年 7 月 13 日	○(財)大阪府消防協会から牧落分団に「大阪の消防大賞」が授与される。
20 年 9 月 7 日	○下止々呂美分団「第 52 回大阪府消防操法訓練大会」優勝
22 年 2 月 10 日	○(財)日本消防協会から表彰旗が授与される。
23 年 4 月 1 日	○豊田団長が(財)大阪府消防協会副会長に就任
25 年 2 月 28 日	○消防庁長官から牧落分団に「消防団等地域活動表彰」が授与される。